



ごあいさつ

平成17年6月

理事長 長谷川良男

皆様には平素より新発田信用金庫に対しまして、格別のご愛顧、お引立てを賜り、誠にありがたく心より御礼申し上げます。

当金庫は、大正13年の創業以来一貫して地域社会の反映に貢献することを基本理念として、地域金融機関として地域との共存共栄を使命に徹してまいりました。

本年も当金庫に対する皆様のご理解を深めて頂くとともに、今後一層のご愛顧を願いたく本誌「しんきんレポート2005」を作成いたしました。

平成16年当初の日本経済は好調な輸出と大企業を中心とした設備投資に支えられて、順調な回復がみられましたが、中盤以降に景気の減速感が広がり、一時の上昇機運からは後退しました。地方経済においても中小企業の過剰債務や雇用問題が未だ解消されておらず、景気回復の実感を得るには時間を要するものと思われれます。

平成17年に入りますと、平成の大合併が進展し、当金庫の地域基盤である新潟市と豊栄市の合併、そして紫雲寺町と加治川村との合併により人口10万6千人の新生・新発田市が誕生するなど、今後の地域経済や環境面での大きな展望と飛躍が期待されております。

金融界においても新アクションプログラムとなる「地域密着型金融の機能強化に関するアクションプログラム」が公表され、地域密着型金融の一層の機能強化を図ることが求められました。

当金庫は、企業経営支援チームを中心とした融資資産の資産良化への取組みや、ペイオフ解禁に向けてはいち早く、県内初となる決済用預金の取扱いを開始するなど地域の皆様のお役に立てる信用金庫を目標として鋭意努力をしてまいりました。

引続き、地域金融機関として地域密着の特性を活かし、ガバナンスを向上させ、リスク管理・コンプライアンス態勢の強化を図り、“地域の皆様から信頼を得られるしんきん”であり続けるよう、役職員一同誠心誠意努力してまいり所存であります。

今後ともより一層のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りし、ご挨拶といたします。

2005
SHIBATA SHINKIN
DISCLOSURE

しんきん レポート